

P o s s i b l e 3年次用②

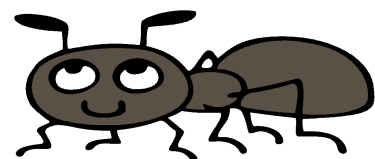
先日、獨協大学の説明会に参加した際、君たちが知っておいた方が良い内容があったのでお知らせします。獨協大学では、2月1日にA方式、2月2日にB方式、3月3日にC方式で入試が行われます。そして合格発表の時、合格者以外に繰り上げ合格候補者の発表も同時に行われます。これは他の私立大学も同じです。驚いたことに、その繰り上げ合格の発表日が、3月10日、3月18日、3月25日、3月28日の4回も用意されていたのです。追加合格人数はバラバラでしたが、第1回で315人、第2回で55人、第3回で164人も繰り上げ合格していました。近年、私立大学では、大学にもよりますが3月31日まで繰り上げ合格をしているようです。もちろんこの時期なら、各自合格した大学に入学金と授業料を納めているのですが、獨協大学の場合、3月31日までであれば、入学辞退の際、入学金以外は返金するそうです(他大学は各自で調べて下さい)。最後の最後で福が舞い込んでくるなんてことが、現実にはたくさんあるのです。埼玉県立大学でも、昨年度1人繰り上げ合格しました。

I. 夏から受験勉強をする際の具体的な勉強方法

① まず、過去問に目を通す。←受験生ならとくにやっていることです…

夏から志望校を目指す場合、まずは過去問に目を通すことから始めましょう。「過去問なんか見たって何もわからない。無意味なんじゃ…?」、そんな声が聞こえてきそうですが、まずは騙されたと思って、とにかく目を通してみることをオススメします。そのメリットとしては、一般的には以下のようなものが挙げられます。

- ・出題傾向がわかる（例：国語では漢文は出題されない等）
- ・大問がいくつあるかや、全体的な問題数がわかる
- ・解答形式がマークか記述かわかる



しかし、それだけでは十分ではありません。最も重要なことは、自分が「いかに実力不足か」という現実を知り、それをしかと受け止めることです。「知っている英単語がほぼ皆無だった…」「試しに解いてみたけど、全問不正解だった…」、現実是非情です。当たり前のように、そんな結果が突きつけられることでしょう。でも、それでいいんです。この時点で、スラスラ解ける必要はまったくありません。今はただ、敵を知り、己を知ることには徹しましょう。己の無力さを知ればこそ、自分は大変な努力をしなくてはならない、というリアリティを得られるのです。「己の不出来を知って初めて本気になれる」。つまりはそういうことです。目指すべき山の高さ、ラスボスの強さを知らないままの勉強には、何の説得力もありません。だから、最初に過去問を見ておく必要があるのです！

② 2000時間勉強する←最低ラインだよ

夏からから志望校合格を目指す場合、一つの目安として、“2000 時間 ”が必要と言われています。過去問を解いたあとなら、「確かにそうかも」と納得できる数字でしょう。ただ、勘違いしないで欲しいのは、2000 時間はあくまでも“最低ライン”という点。基本的には、2500～3000 時間程度覚悟しておくことをオススメします。ちなみに、年間 2000 時間を確保したい場合、「1 日 10 時間勉強なら 200 日」、「1 日 8 時間勉強なら 250 日」が必要となります。これ

は浪人生ならば十分確保できるでしょうが、現役生にとってはかなり困難です。したがって、現役生は、少しずつでも受験対策を開始しておくのがベターです。具体的には、受験レベルの参考書で定期試験の勉強をしてみるなど、ちょっとした工夫で OK です。受験本番を見据えながら普段の授業や定期試験と向き合うだけで、密かにモチベーションと基礎学力が向上し、すんなりと受験モードに突入できます。ちなみに本日、共通テストまで残り 219 日です。

③ 勉強時間の半分以上を復習にあてる←インプット：アウトプットは3：7です

しっかりと成果を上げている受験生に共通しているのは、「絶えず復習を行い、確実に知識の定着ができていく」という点です。反対に、勉強しているのに成果を出せていない受験生は、復習がおろそかになっている可能性が大きい。たとえば、参考書を一周し終えた段階で、「よっしゃ！隅々まで完ぺきに内容を暗記できたぞ！」なんて人はほとんどいませんよね。いたらすごいです。参考書を一周しただけじゃ、完璧にならないのは当たり前。復習せずに勉強を進めていくのは、底のないバケツに水を注ぎ続けるのと同じです。せっかく注がれた知識もあとからあとからこぼれ落ちてしまいます。そこで、まずはバケツの穴をふさぎましょう。参考書をモノにできるまで、何周も繰り返していくのです。一般的に、一冊の参考書を3周ほど回した時点で、「ようやくモノになってきたな」と実感できるレベルです。そしてもちろん、3周を終えて知識がモノになったとしても、時間がたてば記憶は風化してしまうので、その後の定期的な復習も必須となってきます。復習>>>前に進む。知識の定着をさせたいなら、自然とこうした図式が生まれ、勉強時間の半分は復習にあてる、という学習スタイルになるでしょう。

④ 完ぺき主義に陥らない←現役生は穴があって当たり前。まずは1周こなすこと

これは受験生あるあるです。ほとんど全ての人が、無意識的にこの罠に陥っています。例えば、「単語帳を使った英単語暗記」を例にとって説明してみましょう。単語帳をやるからには、一冊完ぺきに覚えなくてはならない、と考える→主な意味だけでなく、派生語や類義語や綴りまで覚えようとする→一つの単語なのに、やるが多すぎる→でも、やると決めたから頑張る→全く学習が進まない→挫折する。皆さんは、こんな状況に陥った経験はありませんか？要するに、初心者がいきなり完ぺきを目指す、と絶対に長続きしないのです。どうがんばっても完ぺきとは程遠い自分に嫌気が差し、そのうち絶望しか感じなくなります。そこで、最初は60%くらい覚えられればいいんだ！くらいのマインドに切り替えて、まずはとにかく一周することを目指しましょう。単語帳ならひとまず、「メインの意味だけをパッと思い出せる」ことをゴールに設定し、できるだけスピーディに終わらせることをオススメします。そして、まだ記憶の新しいうちに、2周、3周と復習を重ねて知識を定着させる。派生語や類義語は、余裕があれば覚える、くらいで OK です！

⑤ 継続のカギは「受験のゲーム化」←勉強を楽しくする、継続につながる

マリオにドラクエ、白猫やモンスター、ポケモン、モンスターハンターなど、古今東西の大ヒットゲームには必ず、次のような「人を熱中させる仕組み」が存在しています。[大ヒットゲームに共通するプレイヤーを熱中させる仕組み]→はじめはチュートリアルなので、かんたんにクリアできる。その後は、適切なレベルの目標がどんどん与えられるので、次に何をすればいいのかで迷うことがない。短期間で負荷を感じすぎずに成長でき、幸福感を得やすい。逆に言うと、上記のポイントを全て無視すれば、あっという間にクソゲー

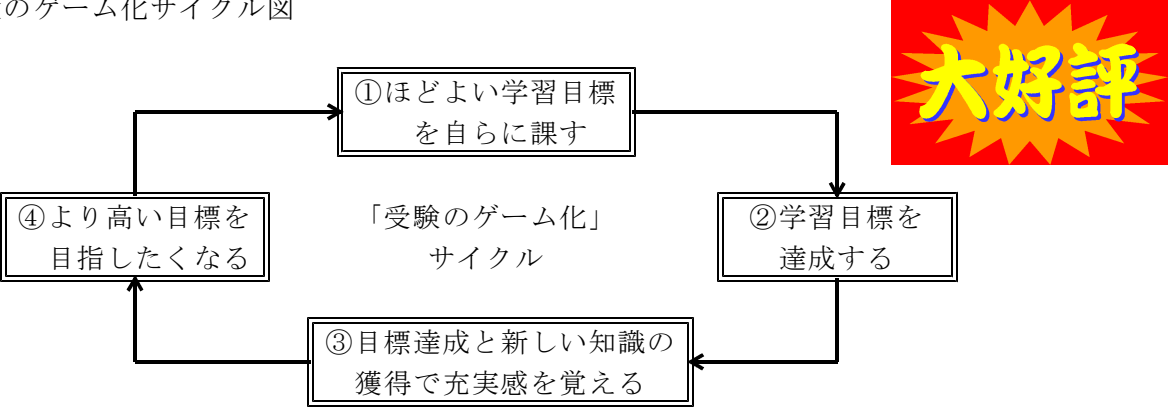


が完成するわけです。志望校合格のための 2000 時間を確保するには、何と言っても学習の“継続”が必要不可欠です。そこで、ゲームに熱中する仕組みを勉強に当てはめて、勉強廃人になることを目指しましょう。勉強に身が入らない受験生は、自らの受験勉強をわざわざクソゲー化しているので、勉強がつまらなくなっているんです。例えば、

- ・チュートリアル段階で、クリアが難しい目標を設けている
- ・その後も、不適切なレベルの目標が不定期に与えられるだけなので、次に何をすればいいのか、常に途方に暮れてしまう
- ・負荷を感じるわりに成長ができず、辛さばかりが積み重なっていく

といったタブーを冒しまくっているのです。それでは、勉強が楽しくなるはずがありません。受験勉強にハマりたいなら、人気ゲームの共通点を日々の学習に取り入れていきましょう。具体的には、日々、以下のサイクルを意識して机に向かうのがオススメです。

受験のゲーム化サイクル図



上図のサイクルが上手く回ると、「受験のゲーム化」現象が起きます。敵を倒して経験値を稼ぎ、どんどん自分をレベル UP させていく過程で、「もっと強い敵と戦いたい！」(＝ より高度な内容の勉強がしたい) と自然に思うようになっていくはず。この場合、中ボスが模試、ラスボスが受験本番 (または過去問)、といったところでしょうか。「受験のゲーム化」を目指す場合、特に重要なのは①です。目標が高すぎるとすぐにやる気を失ってしまうので、自分に負荷をかけすぎないように配慮しましょう。ほどよい学習目標の、“ほどよい” というところがミソです。たとえるなら、自分が主人公のロールプレイングゲームを、自分でプログラミングしながらプレイするイメージですね！自分がハマれるゲームバランスを上手に調整して、日々の勉強を進めていきましょう。「自分＝ゲームプログラマー＝プレイヤー」。この図式を頭に叩き込んで日々を過ごし、独力で学んでいく「受験ゲーマー」になれば、志望校合格は目の前です！

II. 「受験は夏から」という人の受験生活はだいぶ厳しい←よほどの人じゃ無いと無理

結論からいえば、「大学受験は夏からでいいや」という考えを持つ人は、大学受験においてかなり厳しい戦いを強いられることになるでしょう。たしかに、ネットには「夏からはじめて〇〇大学に現役合格！」のような華々しい合格体験記や勉強法が散らばっています。しかし、「受験は夏から」と言っている人は、大半の場合きびしい受験生活を強いられるということです。その理由はなぜか。いくつかの根拠をもとに、解説してきたいと思います。

①また違う言い訳で先送りする可能性が高いから←逃げてばかりでは成長できない

「受験勉強は夏から……」と言っている人は、なにかまた別の言い訳ができたときに、それを

理由に受験勉強を避ける可能性が高いでしょう。1 度言い訳をして逃げると、逃げなれてしまい、逃げやすい人になります。あげくの果てに、現役時代がだめなら浪人して頑張ろうなどと思い始めるかもしれません。できる人は、部活などで時間がない時期でも、残された時間を使って少しずつ、当たり前のように勉強しています。そんななか、忙しいという理由をつけて勉強から逃げていては、かなり遅れをとってしまいます。逃げ癖がつかないようにしてください！



②夏から受験勉強をはじめた体験談は、合格できた人しか書いていないという事実

夏から受験勉強をはじめて合格したという体験談は、たしかに多くあります。しかし、合格体験記というのは合格した人しか書きません。実際に夏から受験勉強をはじめた場合、どれだけの人が合格できるのかはわかりません。また、決して多くはないと思います。公立高校などでは、秋にある文化祭までも高3生が参加することがありますが、そのような高校では浪人をはじめから視野に入れて受験をする人が多いそうです。逆に、夏から受験勉強をはじめて合格したという人は進学校に通っていた人が多いでしょう。進学校に通っていた人は、普段の試験勉強などで基礎学力を身につけており、受験勉強としての勉強をはじめたのが遅かっただけというパターンが多いです。誰しもが夏から受験勉強をはじめて、上手くいくわけではないということを忘れないでください！

③強豪校の部活に所属しているなど、後回しにする理由がないと追い込みが効かないから

夏から受験勉強をはじめて合格している人の中には、強豪校で部活をやっていた人が多いです。強豪校で部活に専念していたような人は努力が当たり前になっている人が多いです。努力が当たり前になっている人は、夏からの受験勉強になったとしても、追い込みが効く人が多いです。さらに、強豪校の部活にいる人ほど、すきま時間の大切さをよくわかっていて、すきま時間を有効に使えている人が多いです。例えば、通学時間などでしっかり英単語を覚えたりしているので、いざ学習に取り組むことになった際に、楽に学習を進めることができます。そうでなくとも、定期試験など、普段の勉強を大切にしているので、まとまった時間は夏からしか取れなくても普段の学習をしっかりしているでしょう。一方で、特に理由もないのに受験勉強を夏に後回しにする人は、努力が習慣になっていないし、すきま時間の使い方も身につけていないので、追い込みをすることが難しくなります。しっかり、早い段階から勉強するようにしてください！

III. 受験勉強を始めるべきときは、今この瞬間←要は夏など待たずに今すぐ始めること

受験勉強をいつはじめようか悩んでいる人は、今この瞬間から始めるべきです。とは言っても、今すぐに 1 日 10 時間やれなどと言っているわけではありません(休日なら 10 時間以上やって下さい)。学校行事や部活動などがあるうちはそのような勉強をすることは困難でしょう。しかし、毎日すきま時間に英単語を見たり、その日の授業の復習をするなど、時間が短くても続けられることはあると思います。小さな学習の積み重ねが、本格的に受験勉強をする際に大きな差となって出てきます。勉強の習慣と基礎的な学力をつけるのは、いつからやっても早すぎることは絶対にはないです。できるなら今すぐに受験勉強を始めるようにしましょう！

